

2014年3月期 第1四半期 決算説明資料



2013年7月31日

ヤマトホールディングス株式会社

免責事項：この内容は、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。なお、提供情報の内容については万全を期しておりますが、完全性、正確性を保証するものではありません。いかなる情報も、不的確な記載や誤植等を含む可能性があります。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当社としては一切の責任を負いかねますのでご承知ください。

ヤマトホールディングス(株) 財務・IR担当の芝崎でございます。

本日は、電話会議にご参加いただきましてありがとうございます。

それでは、資料に沿って、ご説明をさせていただきます。

よろしくお願い申し上げます。

1. 決算概要

2014年3月期第1四半期 決算のポイント

2014年3月期第1四半期の営業利益は91億円と、高水準で着地。
デリバリー事業において、宅急便大口法人市場の通販関連荷物が大幅に増加、
またリテール市場においても好調に推移し、前年に対して大幅増益。

デリバリー事業の動向

- 2014年3月期第1四半期の宅急便取扱個数は、大口法人市場において通販関連の荷物が引き続き大幅に増加。リテール市場においても、好調に推移。
単価の下落要因としては、個数構成比の変化によるもののみと分析。
- 2014年3月期第1四半期のクロネコメール便取扱冊数は、荷受厳格化や競争環境の激化が影響したものの、前年並みの冊数を確保。

各ノンデリバリー事業の動向

- BIZ-ロジ事業 前年同期比では微減益だったものの、想定通りの着地。
- ホームコンビニエンス事業 家財宅急便が好調に推移し、7億円の増収。
3億円の営業赤字だったものの、前年に対して赤字幅は縮小傾向。
- e-ビジネス事業 電子マネー関連サービスや通販関連サービスが好調に推移し前年同期比で増収増益。
- フィナンシャル事業 宅急便コレクトが堅調に推移し、前年同期比で増収増益。
- オートワークス事業 車両整備が堅調に増加し増収。利益も前年並みを確保。

2014年3月期 第1四半期決算のサマリーでございます。

詳細の業績数値は、スライド2・スライド3にもございますので、合わせてご覧頂ければと思います。

- ① 連結営業収益は、前年に対して、全セグメントで増収となり、157億円増の3,145億円となりました。
- ② 連結営業利益は、前年に対して、39億円増の91億円となり、過去最高益に迫る高水準の着地となりました。
- ③ デリバリー事業における大口法人市場の通販関連荷物が大幅に増加し、宅急便取扱数量が好調に推移していることから、対業績予想ベースでも、計画を上回る結果となりました。
- ④ ノンデリバリー事業については、足元、トレンドに大きな変化はなく、ほぼ計画通りの着地となっております。各事業の状況については、記載の通りです。

2. 2014年3月期第1四半期決算の業績



(単位:億円)

	2014年3月期 第1四半期 実績	2013年3月期 第1四半期 実績	前年比較	
			増減	伸率 (%)
営業収益				
デリバリー事業	2,497	2,372	125	5.3
ノンデリバリー事業	647	616	31	5.2
合計	3,145	2,988	157	5.3
営業利益	91	51	39	77.4
(利益率)	2.9%	1.7%	-	-
経常利益	94	56	37	65.8
(利益率)	3.0%	1.9%	-	-
四半期純利益	47	22	25	114.3
(利益率)	1.5%	0.7%	-	-

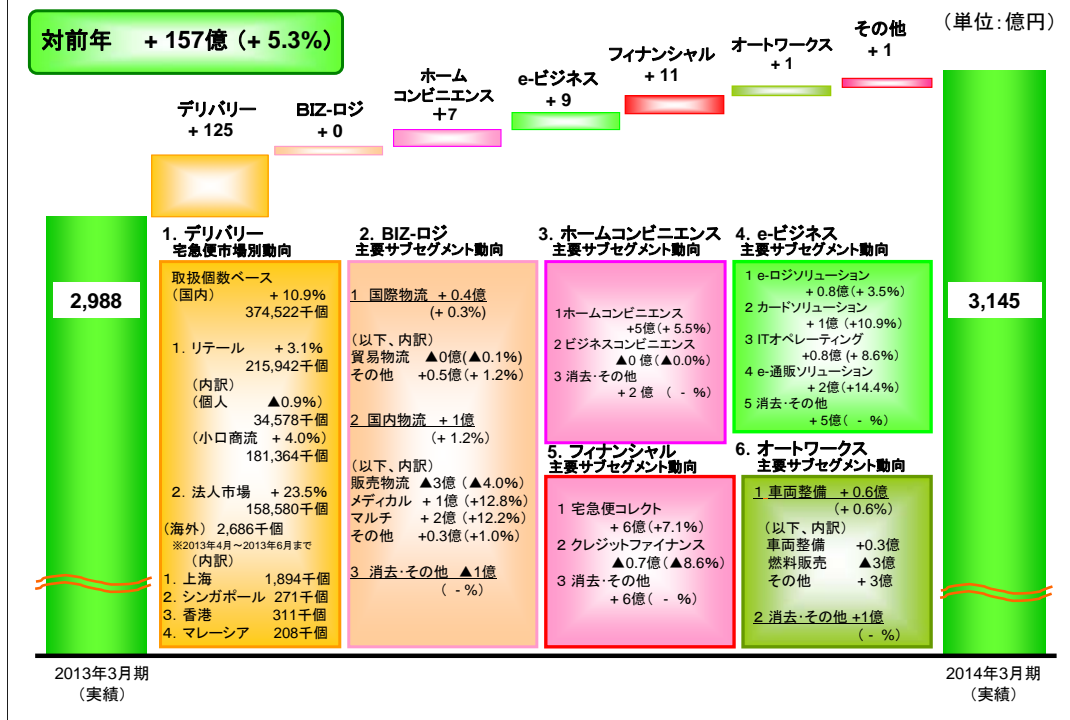
業績数値でございます。

営業収益、営業利益はご説明差し上げた通りです。

① 経常利益以下、記載の通りとなっております。

② 特別利益・特別損失につきましては、第1四半期において、特筆すべきものはございません。

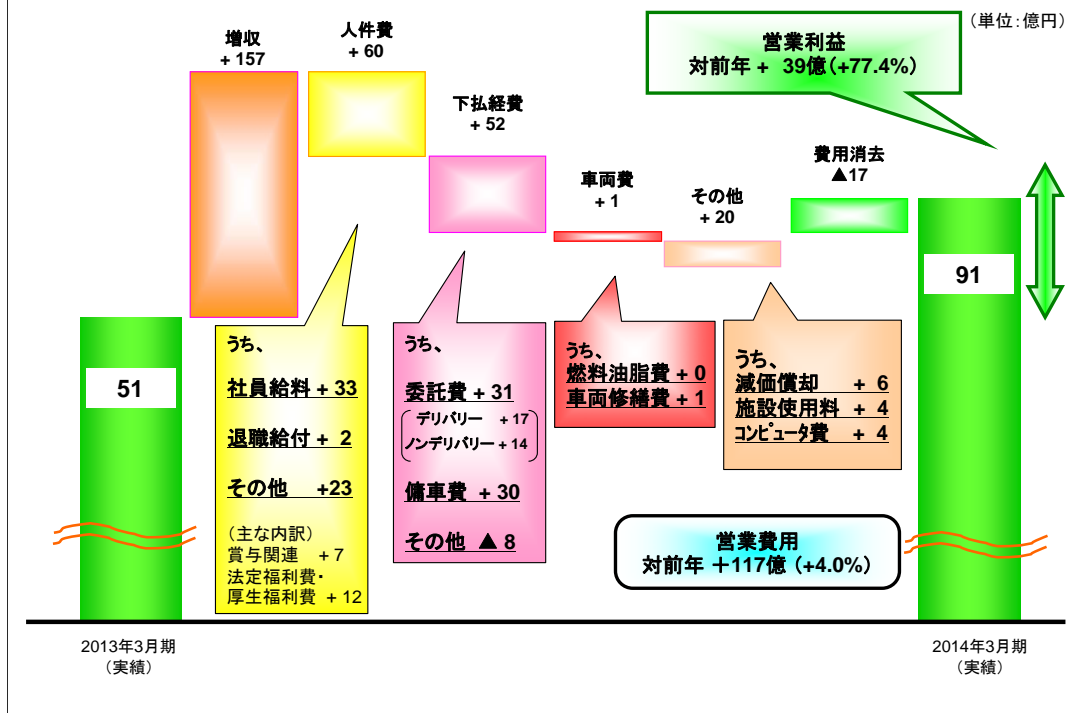
3. 連結営業収益増減分析(対前年)



連結営業収益の増減分析でございます。

- ① スライド1でご説明させていただいた内容と重複いたしますので、詳細は割愛いたしますが、デリバリー事業を中心に、全セグメントで増収となっております。

4. 連結営業費用増減分析(対前年)



連結営業費用の増減分析でございます。

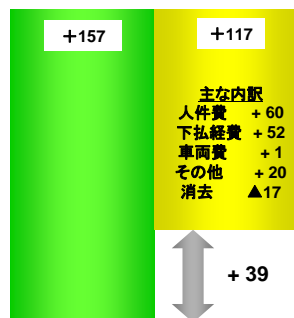
- ① 費用は、収入の前年比+5.3%以下の4.0%に抑えることができましたので、概ねコントロールできていると総括しています。
- ② 会計基準ならびに計上科目の変更等、特筆すべきものはございません。
- ③ 連結営業費用およびデリバリー事業費用の明細は、スライド9とスライド10にございますので、合わせてご覧いただければと思います。
- ④ 費用項目ごとに、ポイントを補足させていただきます。
 人件費につきましては、対前年+60億円となりました。
 社員給料、退職給付費用は記載の通りです。
 セグメント別には、ほとんどがデリバリー事業における増加ですが、ほぼ計画通りの着地です。
 「人件費その他」は、対前年+23億円となりました。
 内訳は、(1)厚生福利／法定福利費関連 +12億円
 (2)賞与関連 +7億円
 (3)日雇い +4億円となっております。
- ⑤ 下払い費用につきましては、対前年+52億円の増加となりました。
 その内、委託費は対前年+31億円増加しておりますが、デリバリー事業で+17億円、BIZ-ロジ事業やフィナンシャル事業等のノンデリバリー事業の増収に対応した増加分として、+14億円です。
- ⑥ 備車費は、対前年+30億円の増加となりました。
 デリバリー事業での増加が+27億円を占めております。
- ⑦ 「下払いその他」は、対前年▲8億円の減少となりました。
 社内間取引ならびに仕入原価／売上原価等が減少したことによります。
- ⑧ 車両費は、前年に対して+1億円でした。車両修繕費が同額増加したことによります。
 燃料油脂費は、ほぼ前年並みです。
- ⑨ 「その他費用」につきましては、対前年+20億円の増加でした。
 その内、減価償却費が6億円の増加でしたが、減価償却費を除いた「その他費用」は、コンピュータ費や施設使用料等、「その他費用」に入っている様々な項目が少しずつ増加しているといった格好です。

5. 四半期別連結営業利益動向(対前年)



2014年3月期第1四半期は、収入大幅確保および費用コントロールにより、
前年同期比39億円の増益。
営業利益は91億円と高水準での着地。

(単位:億円)



2014年3月期
第1四半期
4月~6月
(実績)

営業収益増減額(前年同期比) 営業費用増減額(前年同期比)

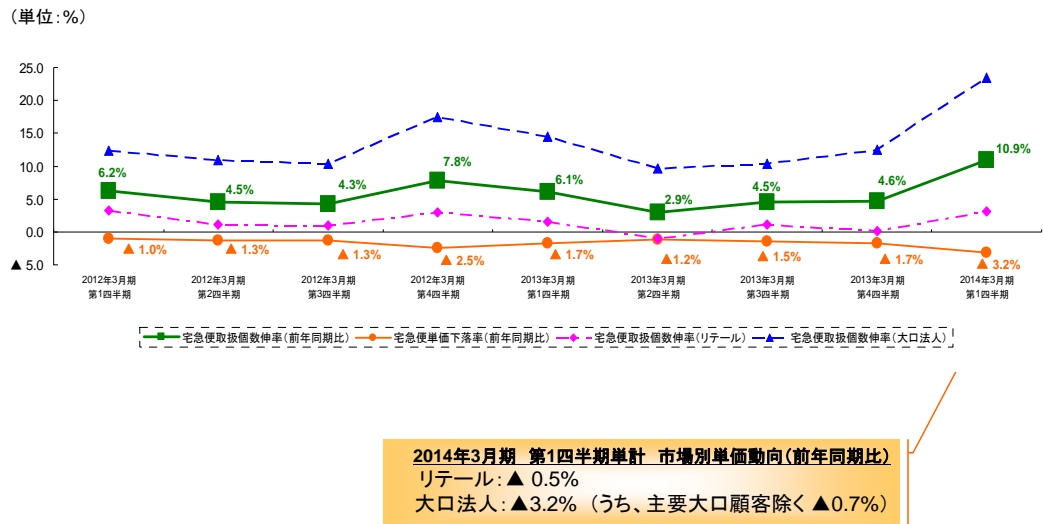
四半期別連結営業利益の動向でございます。

- ① 冒頭の説明の通り、第1四半期は、過去最高益に迫る高水準の営業利益となり、健闘した期となりました。

6. 四半期別宅急便取扱個数・単価動向の推移(対前年)



宅急便取扱個数は、大口法人市場において通販関連荷物が大幅に増加。
リテール市場も好調に推移。単価下落要因は構成比の変化によるもののみと分析。



四半期別宅急便取扱個数・単価動向の推移でございます。

- ① 宅配市場の競争環境は、引き続き安定しております。
- ② 宅急便取扱数量は、通販市場の拡大に伴い、大口法人市場を中心に堅調に伸ばしております。
特に、第1四半期は、通販関係の大口のお客様からの出荷を多く頂いたことが影響し、宅急便取扱数量ベースで前年対比+10.9%となりました。
この内、大口のお客様からの出荷増による影響は、4.0%程度と見ております。
- ③ 市場別には、リテール市場で+3.1%、大口法人市場で+23.5%の伸びとなりました。
- ④ 宅急便単価につきましても、引き続き安定しております。
第1四半期の単価下落率は、ボリュームディスカウントを利かせた大口法人の荷物が大幅に増加したことにより、前年に対して▲3.2%となりました。
下落率が拡大したように見えますが、個数構成比の変化によるもののご理解頂ければと思います。
- ⑤ 単価下落率を市場別に分解いたしますと、リテール市場で▲0.5%、大口法人市場で▲3.2%となっております。
リテール市場は、小口商流市場と個人市場(C2C)に分類できますが、小口商流市場の単価を切り出すと、ほぼ前年並みの水準です。
また、大口法人市場のうち、通販関係の主要大口のお客様を除くと、▲0.7%と、こちらもほぼ前年並みとなっております。

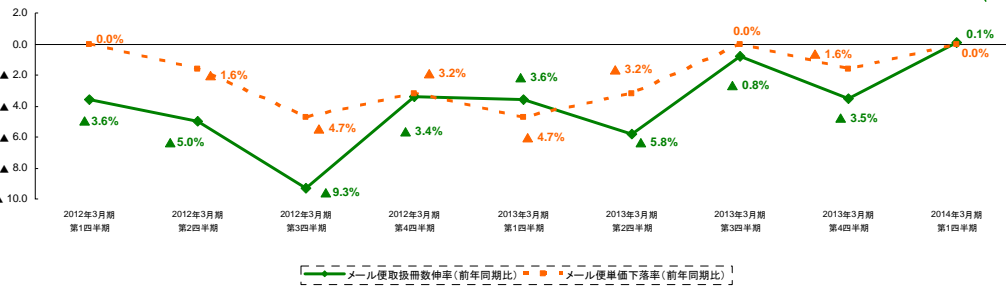
7. 四半期別クロネコメール便取扱冊数・単価動向の推移(対前年)



クロネコメール便取扱冊数は、荷受厳格化や競争環境の激化の影響があったものの、前年並みの冊数を確保。

(単位: %)

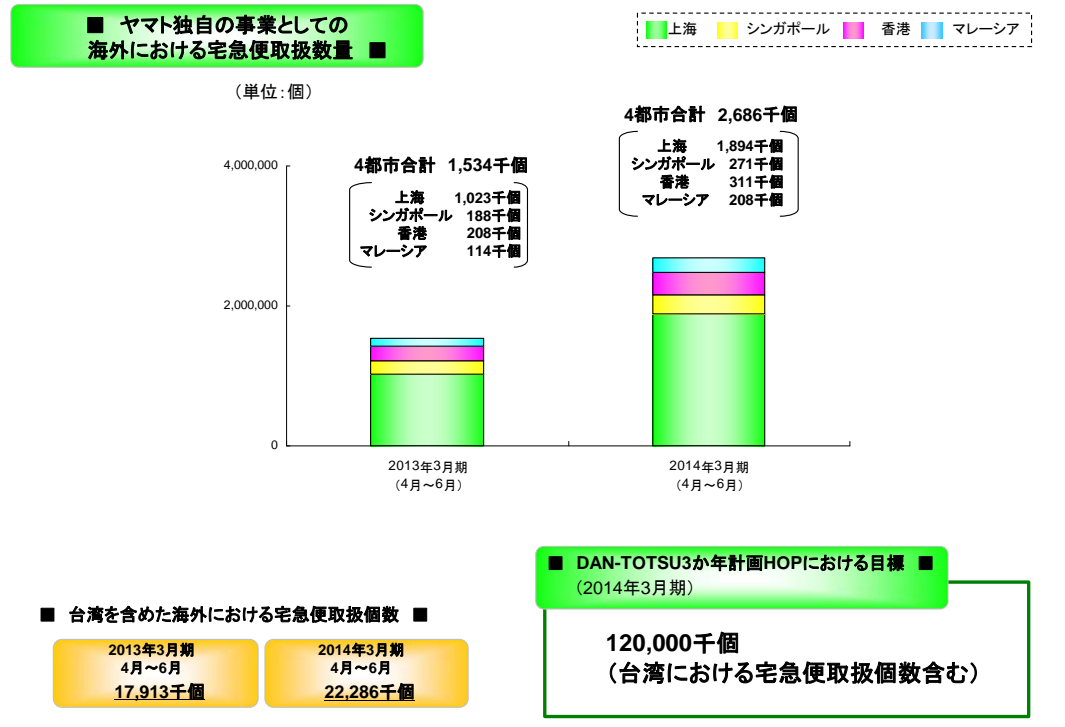
2014年3月期 第1四半期単計 市場別発送冊数(前年同期比)
 宅急便センター発: ▲5.1%
 大口法人発: +2.9%



四半期別クロネコメール便取扱冊数・単価動向の推移でございます。

- ① 第1四半期のクロネコメール便取扱冊数全体は、対前年+0.1%となりました。
 その内、ダイレクトメールを中心とした大口法人市場は+2.9%でしたが、宅急便センター発送の小口商流市場は、▲5.1%と減少しました。
- ② 荷受厳格化の影響はほぼ収束し、足元の競争環境の激化が影響しているとの認識です。
- ③ 第1四半期のクロネコメール便単価は、前年並みの着地となりました。

8. 海外宅急便事業の進捗状況



海外宅急便事業の進捗状況でございます。

- ① 取扱個数につきましては、着実に伸びており、現地における宅配ニーズは確実に顕在化してきております。
- ② 既存展開国の経営強化に加え、それぞれの国・地域を結ぶ国際一貫輸送サービスの拡充を推進していく予定です。
- ③ アジア圏における国際一貫輸送サービスの構築に向けた取り組みとして、2012年11月より、沖縄国際物流ハブを活用した書類の翌日配達サービスをスタートしております。
本年5月からは、小口貨物の翌日配達サービスを開始しており、着実に事業拡大に向けて進んでいることを付け加えさせていただきます。

9.連結営業費用の増減分析(対前年)



(単位:百万円)

	2014年3月期 第1四半期	2013年3月期 第1四半期	前年比較	
	実績	実績	増減	伸率(%)
営業収益	314,551	298,807	15,744	5.3
営業費用	305,414	293,656	11,758	4.0
人件費	168,850	162,839	6,011	3.7
社員給料	116,019	112,644	3,374	3.0
退職給付費用	3,661	3,375	286	8.5
その他	49,169	46,819	2,350	5.0
下払経費	120,373	115,091	5,281	4.6
委託費	47,981	44,854	3,126	7.0
備車費	38,240	35,195	3,045	8.7
その他	34,151	35,041	▲ 890	▲ 2.5
車両費	11,076	10,899	176	1.6
燃料油脂費	6,485	6,430	54	0.9
その他経費	62,708	60,682	2,026	3.3
減価償却費	8,794	8,193	601	7.3
内部消去	▲ 57,595	▲ 55,856	▲ 1,738	3.1

営業費用につきましては、スライド4でご説明した通りです。

スライド9ならびにスライド10につきましては、費用明細としてご活用いただければと思います。

10.デリバリー営業費用の増減分析(対前年) ヤマトホールディングス

(単位:百万円)

	2014年3月期 第1四半期	2013年3月期 第1四半期	前年比較	
	実績	実績	増減	伸率(%)
営業収益	249,756	237,200	12,555	5.3
営業費用	246,537	237,584	8,953	3.8
人件費	142,564	137,426	5,137	3.7
社員給料	96,734	93,978	2,756	2.9
退職給付費用	2,985	2,688	297	11.1
その他	42,843	40,759	2,083	5.1
下払経費	71,289	67,696	3,592	5.3
委託費	25,554	23,851	1,703	7.1
備車費	36,447	33,702	2,745	8.1
その他	9,286	10,143	▲ 856	▲ 8.4
車両費	9,446	9,282	164	1.8
燃料油脂費	5,204	5,175	29	0.6
その他経費	45,287	43,833	1,454	3.3
減価償却費	6,311	5,802	509	8.8
内部消去	▲ 22,050	▲ 20,654	▲ 1,395	6.8

(注記)上記数値は海外宅急便事業にかかわる営業費用も含まれております。

営業費用につきましては、スライド4でご説明した通りです。

スライド9ならびにスライド10につきましては、費用明細としてご活用いただければと思います。

11. 2014年3月期業績予想(1)



(単位:億円)

	2014年3月期 今回予想	2013年3月期 実績	2014年3月期 期首予想	前年比較		予想比較	
				増減	伸率(%)	増減	伸率(%)
営業収益	13,450	12,823	13,370	626	4.9	80	0.6
営業利益	710	662	700	47	7.2	10	1.4
(利益率)	5.3%	5.2%	5.2%	-	-	-	-
経常利益	720	679	710	40	5.9	10	1.4
(利益率)	5.4%	5.3%	5.3%	-	-	-	-
当期純利益	405	351	400	53	15.2	5	1.3
(利益率)	3.0%	2.7%	3.0%	-	-	-	-

連結営業収益・営業利益の通期予想でございます。

- ① 足元の業績は、期首発表いたしました第2四半期予想を上回る見込みであることから、第2四半期予想を収入・利益ともに上方修正いたしました。
 これにより、通期の業績予想につきましても、第2四半期分の修正を反映させ、収入・利益ともに上方修正をしております。

12. 2014年3月期業績予想(2)



(単位:百万円)

	2014年3月期 今回予想	2013年3月期 実績	2014年3月期 期首予想	前年比較		予想比較	
				増減	伸率(%)	増減	伸率(%)
営業収益							
デリバリー事業	1,072,000	1,028,219	1,063,000	43,780	4.3	9,000	0.8
BIZ-ロジ事業	94,000	86,806	94,000	7,193	8.3	0	0.0
ホームコンビニエンス事業	48,500	44,601	48,500	3,898	8.7	0	0.0
e-ビジネス事業	41,000	37,060	41,000	3,939	10.6	0	0.0
フィナンシャル事業	60,000	56,710	59,000	3,289	5.8	1,000	1.7
オートワークス事業	23,500	23,228	25,500	271	1.2	▲2,000	▲7.8
その他	6,000	5,746	6,000	253	4.4	0	0.0
合計	1,345,000	1,282,373	1,337,000	62,626	4.9	8,000	0.6
営業利益							
デリバリー事業	44,500	41,908	43,500	2,591	6.2	1,000	2.3
BIZ-ロジ事業	4,100	4,094	4,100	5	0.1	0	0.0
ホームコンビニエンス事業	300	▲527	300	827	-	0	0.0
e-ビジネス事業	7,000	6,986	7,000	13	0.2	0	0.0
フィナンシャル事業	9,100	8,516	9,100	583	6.9	0	0.0
オートワークス事業	3,100	2,666	3,100	433	16.3	0	0.0
その他	26,100	18,762	26,600	7,337	39.1	▲500	▲1.9
小計	94,200	82,407	93,700	11,792	14.3	500	0.5
消去	▲23,200	▲16,204	▲23,700	▲6,995	-	500	-
合計	71,000	66,202	70,000	4,797	7.2	1,000	1.4
(利益率)	5.3%	5.2%	5.2%	-	-	-	-
経常利益	72,000	67,991	71,000	4,008	5.9	1,000	1.4
(利益率)	5.4%	5.3%	5.3%	-	-	-	-
当期純利益	40,500	35,144	40,000	5,355	15.2	500	1.3
(利益率)	3.0%	2.7%	3.0%	-	-	-	-

セグメント毎の営業収益・営業利益の通期予想でございます。

- ① セグメント毎の収入・利益につきましては、全てのセグメントで増収増益を計画しています。
足元の業績動向を踏まえ、セグメント別の収入・利益予想内訳についても若干の修正を加えさせて頂いておりますが、上方修正の主な要因は、宅急便数量が期首予想よりも上回る見込みであることから、デリバリー事業を中心に修正させて頂きました。
- ② 補足資料P10以降に予想に関わる数値を記載させていただいておりますので、合わせてご覧いただければと思いますが、簡単に予想策定的前提をご説明いたします。

デリバリー事業は、対前年+437億円の増収に対し、+25億円の増益を予想しています。
期首からは、収入で+90億円、利益で+10億円、上方修正しています。
数量ベースでは、対前年+8.6%の16億1,500万個、単価は対前年▲3.2%の572円で見いております。
期首からは、個数ベースで4,300万個の上方修正、単価では▲11円の下方修正をしております。

足元の競争環境が安定していることに加え、通販市場の拡大が牽引し、大口法人市場を中心に好調な伸びを示しており、このトレンドは今期も継続すると見ているためです。

- ③ クロネコメール便は、足元の動向からも、緩やかに回復する見込みであることから、数量ベースで、対前年+2.4%の21億6,300万冊、単価は対前年▲1.6%の60円の前提です。
期首からは、500万冊の上方修正、単価は変更しておりません。

13. 2014年3月期業績予想(3)



業績予想の前提

(単位:百万円)

	2014年3月期 今回予想	2013年3月期 実績	2014年3月期 期首予想	前年比較		予想比較	
				増減	伸率(%)	増減	伸率(%)
営業収益	1,345,000	1,282,373	1,337,000	62,626	4.9	8,000	0.6
営業費用	1,274,000	1,216,170	1,267,000	57,829	4.8	7,000	0.6
人件費	694,000	666,637	691,000	27,362	4.1	3,000	0.4
社員給料	478,000	458,451	478,000	19,548	4.3	0	0.0
退職給付費用	15,000	14,501	15,000	498	3.4	0	0.0
その他	201,000	193,684	198,000	7,315	3.8	3,000	1.5
下払経費	507,000	483,326	503,000	23,673	4.9	4,000	0.8
委託費	202,000	189,555	197,000	12,444	6.6	5,000	2.5
備車費	158,000	148,213	154,000	9,786	6.6	4,000	2.6
その他	147,000	145,556	152,000	1,443	1.0	▲5,000	▲3.3
車両費	45,500	43,741	44,500	1,758	4.0	1,000	2.2
燃料油脂費	28,000	25,779	27,000	2,220	8.6	1,000	3.7
その他経費	273,500	255,436	272,500	18,063	7.1	1,000	0.4
減価償却費	44,500	37,935	44,500	6,564	17.3	0	0.0
内部消去	▲246,000	▲232,970	▲244,000	▲13,029	-	▲2,000	-

営業収益

デリバリー事業

・宅急便取扱数量(予想)
1,615,000(千個) (対前年+8.6%)

・宅急便単価(予想)
572円 (対前年▲3.2%)

・メール便取扱冊数(予想)
2,163,000(千冊) (対前年+2.4%)

・メール便単価(予想)
60円 (対前年▲1.6%)

人件費

社員給料

連結(予想)

合計 192,400人 (対前年 +15,292人
前年比 +8.6%)

フル 86,700人 (対前年 +2,278人
前年比 +2.7%)

パート 105,700人 (対前年 +13,014人
前年比 +14.0%)

その他

社会保険料率の改定等による増加

設備投資

設備投資総額(予想) 90,000百万円

最後に、連結営業費用の通期予想でございます。

- ① 各費用項目の通期予想につきましては、資料に記載の通りです。
足元の動向を踏まえ、各費用項目においても、修正を加えさせていただきました。
- ② 人件費は、「人件費その他」を期首予想より30億円上乗せしました。
保険料率の変更による増額、ならびにデリバリー事業における増員に伴う、賞与・福利費等の増加によるものです。
- ③ 下払い費のうち、委託費の50億円の増額修正ならびに備車費の40億円の増額修正は、宅急便数量増加とほぼ連動するものとお考えいただければと思います。

「下払い費その他」につきましては、オートワックス事業における燃料の仕入原価等が減少することと連動させております。
- ④ 「その他経費」については、期首予想よりも10億円増額しておりますが、減価償却費は変更しておらず、E-ビジネス事業が堅調に推移していることに伴い、通信運搬費等を上乗せしております。
- ⑤ 設備投資額の予想は、期首予想の総額・内訳ともに期首予想から変更しておりません。
- ⑥ 第1四半期は、デリバリー事業を中心に非常に良い業績となりましたが、第2四半期以降につきましても、気を緩めることなく、収益の拡大とコストコントロールを強化させ、過去最高益を上回る営業利益710億円の達成に向けて努力してまいります。

このプレゼンテーション資料はPDF形式で当社ホームページ
「株主・投資家情報」に掲載しております。

この内容は、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当社としては一切の責任を負いかねますのでご承知ください。

Disclaimer: This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation or offer to buy or sell securities or related financial instruments.